

Book

本 池上明（日消連監査委員）

知らぬ間に私たちの足元がトンネルに

——『住宅の真下に巨大トンネルはいらぬ！——ドキュメント。

東京外環道の真実』（丸山重威著、東京外環道訴訟を支える会編）

皆様は、「大深度地下法」というのを耳にされたことはありませんか。

この法律は、道路や鉄道など「公共事業」を実施する際に、地下深く（40m以上）、地上の住民を無視して、巨大トンネルを掘ることのできる、誠に重宝な法なのです。「大深度地下の公共的使用に関する特別措置法」という名により、いつの間にか施行（2001年）されていたのです。

今から10年ほど前、東京の外環道（都心から15キロ圏を環状に通る高速道）が、この法律の本格的適用例として、地下深くに作られることになりました。この本は、その異常さに気付いた住民たちの、訴訟の記録をもとにした告発の書です。

地権者の住民に対して何の了解を得ることなく、一銭の補償金も払う必要がないという、民法も無視の、恐ろしく手前勝手な法律の欺瞞性、そして見過ごすことのできない自然破壊、地下水および都内でも有名な善福寺池への重大な影響と懸念に

ついて、詳しく指摘しています。

すでに消費者レポート11

月号の本欄で、リニア新幹線が計画されている南アルプスの自然破壊を訴える本が紹介されています。この外環道工事も全く同様に、地下水路への深刻な影響など、環境破壊という懸念の数々が論証されています。

かくいう私も、リニア新幹線の起点とされる品川駅からほど遠くない、東京都の大田区に住んでいます。地下トンネルは、やはり大田区の名所である洗足池の真下を通り、巨大な立て坑の計画地も近隣地区にあります。そして、同じくお座なりのJR東海による「説明会」が、すでに始まっています。

外環道工事に直面している住民の方々の杞憂は、決して他人ごとではありません。

あけび書房、232ページ、
定価1600円＋税

